

令和5年3月9日

那覇市長 知念 覚 様

那覇市 I T 戦略会議

議 長 稲垣 純一

副議長 島袋 隆志

委 員 島田 由香

委 員 若宮 正子

委 員 中島 洋

委 員 福島 健一郎

委 員 常盤木 龍治

(仮称) 那覇市DX推進計画素案に対する提言について (提言)

本審議会では、貴市の中長期に及ぶデジタル・トランスフォーメーション (DX) を推進するための指針となる「(仮称) 那覇市DX推進計画」の検討について意見を述べ合い、検討を重ねてきました。

結論として、令和5年3月2日の第5回審議会において示された計画素案の内容について、全体として是認できるものと決定しました。

ただし、より良い那覇市の未来の実現に向けて、委員から留意を望む点も見られたことから、これらについての意見も付して、本審議会の審議結果として提言します。

付

【動機形成・機運醸成に関する提言】

- ① 動機形成にあたっては、業務変革による住民サービスの向上や組織変革による職員個々の自己実現にどのように繋がっていくのかを分かるように示し、職員一人ひとりが自分事としてコミットしていける機運を醸成していくことを望む。
- ② 一部のやる気のある職員のみスポットをあてると、組織内で意識の差が大きくなってしまいうだろう。あくまで全体に対する意識啓発を図ったうえで、特定の属性に焦点をあてた取組を進めるなど戦略的に取り組んでもらいたい。

【環境の整備に関する提言】

- ③ プロジェクトを進めていくチームメンバーや推進員の選定にあたっては、多様性や柔軟性を考慮するとともに、複数人で相談できる体制の構築を検討されたい。
- ④ 課の推進役を担うデジタル化推進員については、役割と責任を明確すると同時に、権限を付与するなど、継続的なモチベーションに繋がる仕組みを検討されたい。
- ⑤ DXの取組には業務改革やデジタル技術に関する知見やノウハウをもった人材が求められる。一方、それらを全て兼ね備えた人材は少ないであろうから、組織の人的資源を有機的にマッチングさせ、円滑なプロジェクト運営に努められたい。

【人材育成・確保に関する提言】

- ⑥ DXの継続した推進には、年代に捕らわれず常に人材が育っていく環境を整えていくことが重要であろう。人材像によって育成の方針は変化するだろうから、ツールの理解からマインドセットまで、多様な育成プログラムを実行していくことを望む。
- ⑦ 先行する自治体では、組織に不足している知識やノウハウをリモートワークによる副業人材の採用、民間企業との人事交流という形で確保しているケースもある。人材の確保にあたっては、先行事例も参考にされたい。

【取組の実行段階に関する提言】

- ⑧ DXを継続的に進めていくため「職員の意識を変える」ことからスタートしていることは評価したい。その中においても「意識を変えることが難しいという意識を変えること」について留意されたい。
- ⑨ DXの取組を進める上で有効となる手法としてアジャイルという考え方を採用して、成功体験を積んでいくことを検討されたい
- ⑩ プロジェクトの対象については事業ごとではなく、課題をベースにしたテーマごとに組成していくことを検討されたい。その際、課題に直接関わる職員のほか、他部門の職員も入れることで、組織全体としてのプロジェクトになるようにされたい。また、現場の課題の解消を目的としたチームと、全体最適を見据え組織全体のマネジメントを改善していくチームを分けるといった手法も留意されたい。
- ⑪ 課題の棚卸や解決策を検討するにあたって重要なことは、職員のみでの議論では現場でできる小さな解決や単なるITの導入留まってしまうことが多く、本質的な課題の発見や、解決手法を見出していくことは困難となる。よって、外部人材などプロフェッショナルの知見も取り入れたうえで実行していくことを検討されたい。

【個別の取組事項に関する提言】

- ⑫ 市民協働の取組を20年来継続して取組んでいる那覇市において、「共にまちをつくる」ための取組が盛り込まれていることは那覇らしさを感じるものとして評価したい。市民との協働による取組は時間や期間を要することから将来を見据えて取組んでもらいたい。
- ⑬ DXの取り組みを進めていくうえで必要となるのが、データマネジメントである。ペーパーレスと併せて生み出されるデータの管理手法や利活手法について明確にして取組まれることを望む。それに伴い管理や廃棄の基準を定めていくことも検討されたい。

【まちのDXに向けた提言】

- ⑭ 那覇市は観光都市であり、それに伴う飲食店、宿泊施設からのフードロス問題など今後市として取組むべき特有の課題が出てくるだろう。DXを通じて那覇市が解決を目指す未来のテーマを設定し、市民に分かる形で示したうえで取組んでいかれることを望む。
- ⑮ 県都那覇市として、観光による交流人口も意識して取組んでもらいたい。
- ⑯ 那覇の土地柄や人柄などの地域性とDXを掛け合わせた取組まれることを望む。
- ⑰ 地域の課題は広範に及び、表面に見えるものから見えないものまで多岐に渡ることから、地域で今起きていることを常に確認するとともに、情報を吸い上げていく手法についても検討されたい。

【DX推進全般に係る提言】

- ⑱ 那覇市では、DXの推進が社会全体の課題であるSDGsの達成、地球環境の負荷軽減に繋がることを常に意識し、広い視点から取組を進めていくことを望む。また、市民や職員一人ひとりが本来持っている強みや能力、可能性を十分に発揮し、豊かな人生を送れる状態にするための手段としてDXを推進していくということを常に念頭に置いて取組を進めてもらいたい。
- ⑲ DXの推進にあたっては、事業に対する投資が何年かけて償却でき、将来的な市の財政にどのようなインパクトを与えるという経済効果の視点を常に意識して取り組まれることを望む。また、効率化により生み出された時間がどのように使われるのか、その効果を分かりやすく示して取り組んでももらいたい。
- ⑳ DXの取組は、非効率の解消などマイナスの部分解消していく取組と、今はないものに付加価値を加えていくプラスの要素を意識したものがある。推進にあたっては、マイナスの要素だけではなく、将来に向けて夢や希望が持てるプラスの要素も意識して取り組まれることを望む。

【本提言の取り扱いについて】

- ㉑ 本提言の内容には、十分な調整と長い検討を要するものも含まれることが想定される。よって、全てが計画に反映されるとは限らないであろうが、計画期間中にこれらを参照できれば、実践にあっても振り返りの契機や示唆となり、市長の附属機関としてなされた本提言の意義が一層高まるものと思料するので配慮されたい。

(以上)